

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①：教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。
(観点に係る状況)

本校の基本教育目標及び学習・教育目標に沿って、豊かな人間性を持った創造力に富んだ実践的技術者を養成するために、専門のさまざまな問題を的確にとらえ柔軟に対処できる基本的な能力を養うことを目指す基礎専門科目と、産業界の国際化に対処できる能力と情操豊かで健全な社会人の育成を目指す一般教養科目を教授できる教員を配置している。特に専門科目の基礎となる数学、及び産業の国際化に対応できる英語能力向上に重点を置くなど、本校の教育目的を達成し得る配置としている(資料3-1-①-1～2)。

本校は、1学年4学級(1学科1学級)、入学定員が160人であり、一般科目担当教員として、専任19人、非常勤講師18人を配置し、入学定員に関わる学生を4の学級に編成する場合、専任教員が18人以上を必要とする高等専門学校設置基準を満たしている。専任教員及び非常勤講師は、専門分野に応じた科目を担当している(資料3-1-①-3～4)。

資料3-1-①-1

一般科目教員配置状況

平成25年5月1日現在

区 分		教 授	特任教授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
一 般 科 目	人文・社会	国語	1		1			2
		歴史			1			1
		地理	1					1
	自然科学	数学	1		2	1		4
		物理					1	1
		化学				1		1
	保健・体育				1	1		2
	外国語	英語			2	1	1	4
		ドイツ語	1					1
	応用数学		1			1		2
応用物理		(2)*						
合 計		5	0	7	5	2	0	19

*応用物理を教授する教員は、機械工学科、電気電子工学科に1名ずつ所属

(出典：総務課資料)

一般科目教員のシラバス事例

教科目名: **数学 I** (Mathematics I)

担当教員: 佐藤浩・上松和弘・野々村和晃・田阪文規

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 4 単位 通年 週 (前期 4) (後期 4) 時間 (合計 120 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (C) (D) ()

授業の概要	
はじめに、式の計算について学ぶ。これは、数学における基本中の基本である。次に、指数関数・対数関数・三角関数について学ぶ。これらの関数は、さまざまな分野で使われている使用頻度の高い関数である。最後に、直線や円などの平面上の図形について学ぶ。直線と円は、平面図形の中では最も基本的なものである。	
関連科目: 数学 I (2・3 年)、数学 II (1・2・3 年)	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中期 1. 整式の計算 (1) 整式の加減乗除 (1) (2) 因数分解 (2) (3) 有理式 (1) 2. 数 (1) (1) 絶対値 (1) (2) 平方根 (1) (前期中間試験) (1)	1. 整式の加減乗除ができる。因数分解の公式を使いこなすことができる。因数分解を使って有理式の加減乗除ができる。 2. 絶対値、平方根の計算ができる。
前期 期末 3. 指数関数 (1) 指数の拡張 (2) 指数法則 (1) (3) 指数関数のグラフ (1) (4) 方程式・不等式 (2) 4. 対数関数 (1) 対数の性質 (1) (2) 対数関数のグラフ (1) (3) 方程式・不等式 (2) (前期末試験) (0)	3. 累乗根、有理指数の意味がわかり、計算ができる。指数関数のグラフがかけられる。方程式・不等式を解くことができる。 4. 対数の意味がわかり、計算ができる。対数関数のグラフが描ける。方程式・不等式を解くことができる
後期 中期 5. 三角関数 (1) 三角比 (1) (2) 一般角と弧度法 (1) (3) 三角関数の相互関係 (1) (4) 加法定理・三角関数の合成 (1) (5) 三角関数のグラフ (1) (6) 方程式・不等式 (1) (後期中間試験) (1)	5. 一般角の三角関数を理解し、三角関数のグラフを描くことができる。 三角関数の相互関係と加法定理を使い三角関数の値を求めることができる。三角関数の合成ができる。 簡単な方程式・不等式を解くことができる。
後期 期末 (7) 三角形の面積 (1) (8) 正弦定理・余弦定理 (1) 6. 平面図形 (1) 座標 (1) (2) 直線の方程式 (2) (3) 2 直線の関係 (1) (4) 円 (2) (学年末試験) (0)	三角形の面積が求められる。 正弦定理・余弦定理を使って三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 6. 二点間の距離、直線の方程式を求めることができる。 2 直線の平行・垂直を傾きの条件で理解ができる。 円の方程式や円の接線を求めることができる。
合計 30 週	
教科書	書名: 新編 高専の数学 1 第 2 版 著者: 田代嘉宏・難波完爾 編 発行所: 森北出版 新編 高専の数学 1 問題集 著者: 田代嘉宏 編 発行所: 森北出版
参考書	書名: ドリルと演習シリーズ 基礎数学 著者: 発行所: 電気書院
評価方法と基準	前期中間試験 15%, 前期末試験 15%, 後期中間試験 15%, 学年末試験 15%, その他授業中に行うテスト (小テスト等) 15%, レポート 15%, 授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 50 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。
オフィスアワー	授業日の 16:00 ~ 17:00

資料 3 - 1 - ① - 2 続き

教科科目名: 英語 II (English II)

担当教員: 田邊英一郎・阿部秀樹

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 (前期 3) (後期 3) 時間 (合計 90 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

英語で聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いて伝えたりするための、基本的な能力を養います。幅広いジャンルの題材に関心と問題意識を持ち、広い視野と豊かな教養を身につけられるよう、内容について深く考えてもらいます。さらに、さまざまなコミュニケーション・スキルに触れ、授業や日常において、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるように努めます。

関連科目: 英語 I、英語 II (2 年次)

	授業内容	(W)	達成目標
前 期 中 間	Lesson 1 Meet Different Cultures!	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化と外国文化の違い、出来事の詳細、および個人の体験談について書かれた文章を読んで理解できる。 ・受け身、動名詞、および現在完了を理解し、それらを用いて簡単な内容を表現できる。 ・自分の知りたいことを表現できる。
	Lesson 2 Owen and Mzee — How a hippo and a toroise became friends	(2)	
	Lesson 3 Sending Smiles through Picture Books	(2)	
	前期中間試験	(1)	
前 期 末	Lesson 4 Break Out of Your Shell	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の経歴、サッカーのユニフォームのデザイン、およびハワイ人の歴史について書かれた文章を読んで理解できる。 ・不定詞、SVO to~/SVOO 構文、および分詞を理解し、それらを用いて簡単な内容を表現できる。 ・自分の体験、自分の希望を表現できる。
	Lesson 5 Soccer Uniforms Say a lot about Countries	(3)	
	Lesson 6 Hokuleas Adventure — Following stars into the unknown	(2)	
	前期末試験	(0)	
後 期 中 間	Lesson 7 Q & A about Name	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の謎、ある人の生涯、およびジャガイモについて書かれた文章を読んで理解できる。 ・SVO/SVOC 構文、分詞構文、過去完了、関係副詞 where などを理解し、それらを用いて簡単な内容を表現できる。 ・自分が不思議に思っていること、身近にいる動物の行動、および自分が好きなキャラクターを表現できる。
	Lesson 8 Rose O Neil — The creator of the Kewpies	(2)	
	Lesson 9 Potato Stories — The history of a vegetable	(2)	
	後期中間試験	(1)	
後 期 末	Lesson 10 Mine Direction Dogs — Dogs working toward a bright future	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成の手順について書かれた文章や、やさしい英語で書かれた短編小説を読んで理解できる。 ・仮定法過去、関係副詞 how、および関係代名詞 what を理解し、それらを用いて簡単な内容を表現できる。 ・関心のある国の歴史や最新の情報について調べ、発表することができる。
	Reading 1	(3)	
	Reading 2	(2)	
	学年末試験	(0)	

合計 30 週

教科書	書名: World Trek I	著者: 望月正道 他	発行所: 桐原書店
参考書	書名: 高校総合英語 Forest	著者: 石黒昭博監修	発行所: 桐原書店
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 20%、後期中間試験 15%、学年末試験 20%、提出物および小テスト 15%、授業への取り組み 15%で総合評価する。(詳細は、各授業担当者の指示に従うこと)		
オフィスアワー	授業日の放課後 (16:00~17:00)		

(出典:平成 25 年度シラバス, p. G-3, G-12)

資料 3 - 1 - ① - 3

一般科目担当教員一覧

氏名	職名	学位等	担当科目	専門分野
大河内 邦子	教授	文学修士	国語	国文学、国語コミュニケーション
佐藤 浩	教授	理学修士	数学	組合せ論
澤 祥	教授	教育学修士	地理	自然地理学、地形学、活断層研究
窪田 眞治	教授	文学修士	ドイツ語	ドイツ文学
上松 和弘	教授	理学博士	数学	代数幾何学、複素幾何学
田邊 英一郎	准教授	教育学修士	英語	英語学、英語教育学
本間 浩二	准教授	体育学士	体育	ラグビー
加田 謙一郎	准教授	修士(文学)	国語	国文学
山田 充昭	准教授	博士(文学)	歴史	日本史学
阿部 秀樹	准教授	修士(音声学・英語教授法)	英語	英語音声学
野々村 和晃	准教授	博士(理学)	数学	環論
茨木 貴徳	准教授	博士(理学)	数学	非線形関数解析学、凸解析学
比留間 浩介	講師	博士(コーチング学)	体育	トレーニング科学
木村 太郎	講師	博士(理学)	数学	微分幾何学
主濱 祐二	講師	修士(教育学)	英語	英語学、英語教育学
田阪 文規	講師	博士(理学)	数学	群論
上條 利夫	講師	博士(理学)	化学	分析化学、分光学、材料科学
徳永 慎太郎	助教	文学修士	英語	英語、国際交流
大西 宏昌	助教	博士(理学)	物理	理論固体物理学

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ① - 4

一般科目非常勤講師一覧

氏名	学位等	担当科目	専門分野
佐藤 修一	理学修士	数学	数学、応用数学
小泉 信三	学士	化学・生物	化学
佐藤 浩	学士	生物	生物学
滝口 孝志	学士	数学	数学
江川 満	学士	美術	陶芸
江川 てる子	学士	美術	絵画
門脇 博子	学士	音楽	音楽
伊藤 堅治	体育学士	保健・体育	保健体育、柔道
村田 久忠	学士	保健・体育	体育
有地 智枝子	学士	国語	国語
小松 明俊	学士	英語	英語
ポール・ホプキンス	学士	英語	英語コミュニケーション
長谷川 佐知子	学士	英語	英語
富樫 恵	学士	英語	英語
菊地 善教	学士	倫理	倫理社会
山内 清	博士(経済学)	政治・経済	経済理論、中国経済
齋藤 和久	学士	歴史	歴史学

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、1学年4学級(1学科1学級)の入学定員が160人で、一般科目担当教員として、専任19人、非常勤講師18人を配置し、高等専門学校設置基準を満たしている。専任教員及び非常勤講師は、専門分野に応じた科目を担当しており、豊かな人間性を持った創造力に富んだ実践的技術者を養成している。

以上により、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員を適切に配置している。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は、各学科1学年1学級40名で構成され、専門科目担当教員として、専任44人、非常勤講師28人を配置し、専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は36名で、全専任教員44名の1/2以上となっていること、また各学科8名以上の専門科目担当教員が在籍し、高等専門学校設置基準を満たしており、学科毎の人数、職位のバランスが良いものとなっている(資料3-1-②-1)。

専門学科では、本校の基本教育目標及び学習・教育目標に沿って、各学科の目的に合致する専門の知識を有した教員を配置し、工業界の様々な分野で活躍できる教養豊かな実践的技術者を養成できるようにしている(資料2-1-①-4~7参照)。また、これらを担当する教員は非常勤講師を含め、各担当分野で高い専門性を有し、教育・研究活動を行っている(資料3-1-②-2~5)。

資料3-1-②-1

専門科目教員配置状況

平成25年5月1日現在

区 分		教 授	特任教授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
専 門 科 目	機 械 工 学 科	4		6		1		11
	電 気 電 子 工 学 科	6		4		1		11
	制 御 情 報 工 学 科	3	1	6		1		11
	物 質 工 学 科	4	1	3		3		11
合 計		17	2	19		6		44

(出典：総務課資料)

資料3-1-②-2

機械工学科担当教員一覧

氏名	職名	学位等	担当科目	専門分野
末永文厚	教授	工学修士, 技術士	エネルギー交換工学, 設計工学	熱流体工学
本橋元	教授	博士(工学)	機械力学, 機械設計製図, 機械工学実験, 工業力学	自然エネルギー
當摩栄路	教授	技術士	物理, 応用物理	品質工学、機械設計
田中浩	教授	博士(工学)	機械工作法, 機械工学実験, 機械工学実習, 精密加工学	加工学
竹村学	准教授	工学修士	情報処理, 数値解析, 機械設計製図, 機械工学実験	システム計画学
五十嵐幸徳	准教授	工学修士	材料学, 製図製作実習, 機械工学 実験	材料工学
増山知也	准教授	博士(工学)	基礎製図, 材料力学, 機械工学実 験	機械要素設計
佐々木裕之	准教授	博士(理工学)	マイコン制御, メカトロニクス, 機械設計製図, 機械工学実験	ロボット工学
矢吹益久	准教授	博士(工学)	工業力学, 熱力学, 熱力学演習, 機械要素設計	真空工学
小野寺良二	准教授	博士(工学)	創造実習, 材料力学, 制御工学,	計測制御
今野健一	助教	博士(工学)	機械製図, 機構学, 機械工学実験	生体力学

非常勤講師

氏名	学位等	担当科目	専門分野
長谷川 佐知子	学士	工業英語	英語
山崎 聡	修士	生産工学	生産工学
佐藤健司	学士	電気基礎	電気工学
後藤 誠	準学士	製図製作実習	機械工作法
白野 啓一	工学修士	水力学演習	流体力学

(出典：総務課資料)

資料 3-1-②-3

電気電子工学科担当教員一覧

氏名	職名	学位等	担当科目	専門分野
佐藤 秀昭	教授	工学修士	電気電子工学基礎実験・実習, 電気回路	電気応用、交流理論
江口 宇三郎	教授	博士(工学)	電気電子計測, パワーエレクトロニクス, 電気電子工学	光計測工学
吉木 宏之	教授	理学博士	物理, 応用物理	プラズマ理工学、原子核理論
内山 潔	教授	博士(工学)	電気磁気学, 電気電子工学実験・実習, 電子工学	電気電子材料
神田 和也	教授	博士(工学)	電気電子基礎, 電気電子工学実験実習, 電子回路, 電子回路演習	センサ工学
佐藤 淳	教授	博士(工学)	情報処理, 制御工学, デジタル回路, 電気電子工学実験・実習, マイクロコンピュータ, デジタル制御システム	計算機工学
保科 紳一郎	准教授	博士(工学)	電気磁気学, 電気磁気学演習, 通信工学, 電気電子工学実験・実習	電波工学
武市 義弘	准教授	博士(工学)	情報処理, プログラミング演習, 電気電子工学実験, 実習情報通信デジタル信号処理	デジタル信号処理
宝賀 剛	准教授	博士(工学)	電気電子工学基礎実験・実習, 電気電子工学実験, 電気電子製図, 電気機器, 電気機器設計	電気物性
加藤 健太郎	准教授	博士(工学)	(内地研究)	計算機工学
森谷 克彦	助教	博士(工学)	電気回路, 電気機器, 電気電子工学実験・実習, 高電圧工学, 発変電工学	電子物性

非常勤講師

氏名	学位等	担当科目	専門分野
長谷川 佐知子	学士	工業英語	英語
後藤 誠	准学士	電気電子製図	機械工作法
佐藤 誉範	修士	情報処理	情報処理
笠原 照明	修士	計算機工学, ソフトウェア工学	ソフトウェア, 計算機

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ② - 4

制御情報工学科担当教員一覧

氏名	職名	学位等	担当科目	専門分野
吉住圭市	教授	理学士	ハードウェア概論, ソフトウェア工学, プログラミング演習, データ構造, 制御情報工学実験・実習	情報科学
柳本憲作	教授	博士(工学)	制御工学, システム制御, 音と福祉工学, 制御情報工学実験・実習	制御工学、音響工学
渡部誠二	教授	博士(工学)	信号処理, 制御情報工学実験実習,	デジタル信号処理
安齋弘樹	准教授	博士(工学)	電気工学, 電気工学演習, 制御工学実験・実習, 電子デバイス工学	計算電磁気学
三村泰成	准教授	博士(環境学)	材料力学, 数値解析, 熱力学, 機械・電気製図, 制御情報工学実験・実習	計算力学
宍戸道明	准教授	博士(工学), 技術士	機械電気製図, 創造実習, 医療福祉機器工学, 制御情報工学実験実習	ME工学
西山勝彦	准教授	博士(工学)	情報処理, マイクロコンピュータ, 制御情報工学実験・実習	ナノ・バイオ プロセスシミュレーション工学
安田新	准教授	博士(工学)	電子回路, 制御情報工学実験・実習	電子・光計測
内海哲史	准教授	博士(情報科学)	プログラミング言語, 実践情報処理, 情報ネットワーク	コンピュータネットワーク
金帝演	助教	博士(工学)	実践情報処理, アルゴリズム入門	位置特定、センシング
佐藤義重	特任教授	博士(工学)	材料力学, ロボット工学	制御工学、ロボット工学

非常勤講師

氏名	学位等	担当科目	専門分野
長谷川 佐知子	学士	工業英語	英語
佐藤健司	学士	制御情報工学実験・実習	電気工学
後藤 誠	準学士	機械・電気製図	機械工作法
白野 啓一	工学修士	水力学	流体力学

(出典：総務課資料)

資料 3-1-②-5

物質工学科担当教員一覧

氏名	職名	学位等	担当科目	専門分野
飯島政雄	教授	博士(工学)	工業化学特論, 物理化学, 機器分析, 生物物理化学, 生物工学実験	生物有機化学
佐藤貴哉	教授	博士(工学)	有機化学, 有機材料科学, 物質化学	機能高分子化学、材料化学
瀬川透	教授	理学博士	有機化学, 物質化学実験, 材料化学, 有機電子論	有機化学、有機光化学
戸嶋茂郎	教授	工学博士	物理化学, 電気化学, 物質化学実験	電気化学
佐藤司	准教授	博士(工学)	材料化学, 物理化学, 物質化学実験, 材料工学実験	高分子化学
南淳	准教授	博士(理学)	生物化学, 工業英語, 物質化学実験, 生物工学基礎, 生物工学実験	植物細胞分子生理学
森永隆志	准教授	博士(工学)	(物質・材料研究機構へ出向)	高分子化学、材料化学
阿部達雄	助教	博士(工学)	分析化学, 環境とエネルギー, 環境生態学, 物質化学実験	環境化学、生物化学、分析化学
平尾彰子	助教	博士(理学)	工業化学特論, 物質化学実験, 基礎生物学	時間栄養学, 時間薬物治療学
伊藤滋啓	助教	博士(工学)	物質化学実験, 無機化学, 材料化学	無機化学、結晶化学
清野恵一	特任教授	工学士	化学工学, 計測制御, 反応工学, 物質化学実験, 創造実習	化学工学

非常勤講師

氏名	学位等	担当科目	専門分野
笹沼恒男	博士	分子生物学	生物学
小谷卓	工学士	地球環境科学	分析化学、環境科学
佐藤健司	学士	電気工学概論	電気工学
貫名学	博士	バイオテクノロジー	生物学
伏谷眞二	博士	薬学概論	薬学
鈴木徹	準学士	情報処理	情報処理

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、1学年4学級(1学科1学級)で構成され、専門科目担当教員として、専任44人、非常勤講師28人を配置し、高等専門学校設置基準を満たしており、4つの専門学科に適切に配置している。高い専門性を有した専任教員及び非常勤講師は、専門分野に応じた科目を担当しており、工業界の様々な分野で活躍できる教養豊かな実践的技術者を養成している。

以上により、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-③： 専攻科課程を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科課程の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程は、機械電気システム工学専攻及び物質工学専攻で構成されており、専攻科課程の学習・教育目標と到達目標を達成するために、両専攻に共通な一般科目・共通専門科目と専門科目の区分ごとに必要とする高度な専門性を有する教員を適切に配置している(資料3-1-③-1~4)。

資料3-1-③-1

専攻科一般・共通専門科目担当教員一覧

専任教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
澤 祥	教授	環境地理学特論	自然地理学、地形学、活断層研究
佐藤 浩	教授	応用代数	組合せ論
木村 太郎	講師	応用解析特論	微分幾何学
大西 宏昌	助教	固体物理学	理論固体物理学
加田 謙一郎	准教授	日本学特論	国文学
阿部 秀樹	准教授	総合実践英語Ⅱ	英語音声学・音韻論、第二言語の音韻習得
徳永 慎太郎	助教	総合実践英語Ⅰ	英語、国際交流

非常勤講師

氏名	学位等	担当科目	専門分野
遠藤 憲子	経済学博士	社会思想史	経済学, 社会学

(出典：総務課資料)

資料3-1-③-2

機械電気システム工学専攻 専任教員一覧

氏名	職名	担当科目	専門分野
本橋 元	教授	応用機構学, 塑性加工学, 専攻科実験	自然エネルギー
末永 文厚	教授	設計工学	熱流体工学
田中 浩	教授	専攻科実験	加工学
竹村 学	准教授	システム計画学	システム計画学
五十嵐 幸徳	准教授	材料設計学	材料工学
増山 知也	准教授	設計工学, 創造工学演習, 専攻科実験	機械要素設計
佐々木 裕之	准教授	総合技術論, 専攻科実験	ロボット工学
矢吹 益久	准教授	総合技術論	真空工学
小野寺 良二	准教授	創造工学演習, 実践的デザイン工学演習, 専攻科実験	計測制御
佐藤 秀昭	教授	専攻科実験	電気応用、交流理論
江口 宇三郎	教授	経営工学, レーザー応用計測	光計測工学
吉木 宏之	教授	物理, 応用物理, 物理学特論	プラズマ理工学、原子核理論
内山 潔	教授	数値計算	電気電子材料
神田 和也	教授	経営工学, 光電子デバイス	センサ工学
佐藤 淳	教授	専攻科実験, 集積回路設計, 計算機シス	計算機工学
保科 紳一郎	准教授	電磁気応用工学, 伝送システム工学	電波工学
武市 義弘	准教授	専攻科実験, 信号処理特論	デジタル信号処理
宝賀 剛	准教授	実践的デザイン工学演習, 創造工学演習	電気物性
柳本 憲作	教授	音響工学	制御工学、音響工学
渡部 誠二	教授	実践電気電子工学, 創造工学演習	デジタル信号処理
三村 泰成	准教授	応用コンピュータグラフィクス, 材料力学特論, 総合技術論	計算力学
宍戸 道明	准教授	技術者倫理, 実践的デザイン工学演習	ME工学
西山 勝彦	准教授	シミュレーション工学	ナノ・バイオプロセスシミュレーション工学
佐藤 義重	特任教授	制御工学特論, 総合技術論	制御工学、ロボット工学
宮崎 孝雄	嘱託教授	センサー工学, データ解析	光応用計測、計測工学一般

(出典：総務課資料)

資料3-1-③-3

物質工学専攻 専任教員一覧

氏名	職名	担当科目	専門分野
瀨川 透	教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	有機化学、有機光化学
飯島 政雄	教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	生物有機化学
佐藤 貴哉	教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学, 高分子合成化学, 安全工学	機能高分子化学、材料化学
戸嶋 茂郎	教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	電気化学
南 淳	准教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	植物細胞分子生理学
佐藤 司	准教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学, 高分子材料化学, 実践的デザイン工学演習	高分子化学
阿部 達雄	助教	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	環境化学、生物化学、分析化学
平尾 彰子	助教	創造実習Ⅱ, 工業分析化学, 生物機能材	時間栄養学、時間薬物治療学
清野 恵一	特任教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学	化学工学
栗野 幸雄	嘱託教授	創造実習Ⅱ, 工業分析化学, 材料科学	無機化学

(出典：総務課資料)

資料3-1-③-4

専攻科 非常勤講師一覧

氏名	学位等	担当科目	専門分野
小谷 卓	工学士	環境化学	分析化学、環境科学
加藤 康志郎	博士(工学)	総合技術論	トライボロジー、機械要素
丹 省一	博士(工学)	流体機械, 総合技術論	流体工学、エネルギー変換工学
斉藤 茂	博士	総合技術論	流体工学
鷺尾 幸久	学士	総合技術論	海洋学
金田 康正	博士	総合技術論	コンピュータ
松木 英敏	工学博士	総合技術論	電気工学
萩原 久大	理学博士	生物資源利用化学	生物学
Mikael A. Langthem	博士	音響工学	流体関連騒音、振動
FEILLET Celine	博士	生物機能材料	生物学

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程は、機械電気システム工学専攻及び物質工学専攻の2専攻で構成されており、専攻科課程の学習・教育目標と具体的な到達目標を達成するために、両専攻に共通な一般科目・共通専門科目と専門科目の区分ごとに必要な高度の専門性を有する授業科目担当教員を適切に配置している。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校では、教員組織の活動をより活発化するために、高等専門学校設置基準の規定に従い、均衡ある年齢構成、男女比率、教育経歴、及び多様な経験等への配慮に基づいた教員組織となるよう努め、特に女性の積極的採用に取り組み、教員公募時にも明記している(資料3-1-④-1)。

教員の年齢構成については、各年代でバランスのとれた教員組織となるように選考、配置している(資料3-1-④-2)。教育経歴への配慮については専門学科では84%、総合科学科理系では87%が博士の学位を有しており、総合科学科文系では90%が修士あるいは博士の学位を有している(資料3-1-④-3)。また、技術士を有する教員も3名配置されている(資料3-1-②-2, 4参照)。教員の中で、企業経験者22%、他の教育研究機関経験者25%であり、多様な経験を持つ教員が配置されている(資料3-1-④-4)。

また、教員のポテンシャルを高め、教育・研究水準の維持向上及び教育・研究の活性化を図るため、以下のような活動を行っている。

<1>学内優秀教員表彰

本校教職員等顕彰規程により、毎年功績のあった教員を表彰する(資料3-1-④-5~6)

<2>教員交流および在外・内地研究員

教員交流や在外・内地研究員制度を活用し、継続して教育・研究を活発化させている(資料3-1-④-7)。

<3>各種教員研究集会への参加

高専女子フォーラム、クラス経営・生活指導研修会、高専・両技科大教員交流研究集会等、高専機構、両技科大が主催する教員研修会に継続して参加している(資料3-1-④-8)。

<4>研究奨励教員

平成24年度より、研究活動の活性化を目的として、教員の研究遂行に必要な知識及び能力の向上を図る活動を奨励するため、研究奨励教員制度を開始した(資料3-1-④-9)。教員は校務を最小限に抑えることができ、研究に専念可能な環境となる。現在3名の教員が選抜されている。(資料3-1-④-10)

<5>校長との面談

毎年度初めに、新任教職員、配置換え教職員、希望する教職員との面談が行われている(資料3-1-④-11)。

教員公募資料

- 1.募集人員 助教 1名
- 2.所属学科 機械工学科
- 3.担当 機械要素・機構学などに関する講義及び実験、機械設計製図、卒業研究、専攻科研究
- 4.応募資格
- 下記のいずれにも該当する方

1) 機械系の学科を専攻し、博士の学位を有する方(取得見込みの方を含む)
又は技術士の資格を有する方

2) 高専での教育・研究及び学生指導に熱意のある方
- 5.採用時期 平成24年10月1日以降のなるべく早い時期
- 6.提出書類
- 1) 履歴書(市販のものあるいは同一書式で作成可。写真添付、自身の連絡先にはTel/Fax番号及びメールアドレスを記入のこと。)
- 2) 研究業績一覧(著書、学術論文、学会発表など。)
- 3) 主要論文の別刷3編以内(コピー可、研究業績一覧表に○印を付すこと。)
- 4) 「高専における教育・研究」に対する抱負について記したもの(A4版1枚 1,000字程度)
- 5) 推薦書(別封で提出、A4版、様式自由、推薦者の自筆署名又は押印されたもの。自薦の場合は、応募者について照会可能な方2名の氏名及び連絡先。)
- 7.応募期限 平成24年6月29日(金)必着
- 8.選抜方法
- 1) 第一次選考 書類選考
- 2) 第二次選考 面接(第一次選考合格者を対象に行います。)
- 9.書類送付先 〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104
鶴岡工業高等専門学校 総務課人事係長 宛
Tel:(0235)25-9015、Fax:(0235)24-1840
E-mail:jinji@tsuruoka-nct.ac.jp
(応募書類は、「機械工学科教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送願います。)
- 10.問い合わせ先 機械工学科長 教授 本橋 元
Tel:(0235)25-9201
E-mail:motohashi@tsuruoka-nct.ac.jp
- 11.本校情報 本校の教育内容等については、ホームページ(<http://www.tsuruoka-nct.ac.jp>)をご参照願います。
- 12.その他
- ① 本校では男女共同参画社会基本法の精神に則り教員の選考を行っています。本公募では、研究業績、教育業績、社会貢献等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用いたします。

② 本校では研究奨励教員制度を運用しており、選抜されると校務負担が軽減されます。また、国際交流活動の活性化に努めています。

③ 応募書類は、原則として返却いたしません。また、応募書類記載の個人情報は、鶴岡工業高等専門学校の教員を採用するためにのみ利用するものであり、第三者に提供又は公表することはありません。

(出典：総務課資料)

資料3-1-④-2

専任教員年齢構成一覽

平成25年5月1日現在

区 分	20～29		30～39		40～49		50～59		60～	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合科学科文系	1		2		5		2			1
総合科学科理系			4		2		2			
小 計	1		6		7		4			1
機械工学科			3		3		4		1	
電気電子工学科			2		4		3		2	
制御情報工学科			3		5		2		1	
物質工学科	1	1	2		2		4		1	
小 計	1	1	10		14		13		5	
合 計	2	1	16		21		17		5	1

(出典：総務課資料)

資料3-1-④-3

専任教員の学位取得状況

平成25年5月1日現在

区 分	博 士		修 士		そ の 他		小計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	
総合科学科文系	2	18.18%	8	72.73%	1	9.09%	11
総合科学科理系	7	87.50%	1	12.50%			8
専門4学科	37	84.09%	4	9.09%	3	6.82%	44
合 計	46	73.02%	13	20.63%	4	6.35%	63

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 4

教員の前職経験状況

平成 25 年 5 月 1 日現在

区分	人数	全体に占める割合 (%)
民間企業勤務	14	22%
大学または研究機関勤務	16	25%
他の高等専門学校勤務	3	5%
高等学校等勤務	5	8%
学生・その他	25	40%
合計	63	100%

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 5

鶴岡工業高等専門学校教職員等顕彰規程 (抜粋)

制 定 平成 17 年 4 月 13 日

最終改正 平成 19 年 4 月 2 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則に定めるもののほか、本校における表彰状及び感謝状の授与に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授与)

第 2 条 表彰状又は感謝状は、校長が次の各号に掲げる者に授与するものとする。

- 一 本校の校益又は名誉の高揚に資する検証可能な顕著かつ具体的功績あるいは功労のある者
- 二 その他校長が必要と認めた者

(出典：規程集)

平成24年度 教員顕彰被表彰者一覧

○表彰状

所属	氏名		表彰内容	備考	表彰状文案
機械工学科	田中 浩	学生指導	平成24年度高専-長岡技科大(機械系)教員交流研究会「研究情報交換会」において、最優秀プレゼンテーション賞を受賞した、専攻科機械電気システム工学科専攻1年齋藤 翼君の指導教員		貴殿は学生指導に精励され 平成24年度高専-長岡技科大(機械系)教員交流研究会「研究情報交換会」において指導学生の最優秀プレゼンテーション賞受賞に多大の貢献をされました ここに本校顕彰規程に基づき貴殿の卓越した功勞に対して平成24年度鶴岡工業高等専門学校優秀教職員表彰状を呈して深甚の謝意と敬意を表します
電気電子工学科	佐藤 淳	学生指導	マイクロソフト・国立高専機構IT共同教育プロジェクトアプリ開発コンテスト学校賞受賞 応募学生の指導教員		貴殿は学生指導に精励され マイクロソフト・国立高専機構IT共同教育プロジェクトアプリ開発コンテストにおいて指導学生の学校賞受賞に多大の貢献をされました ここに本校顕彰規程に基づき貴殿の卓越した功勞に対して平成24年度鶴岡工業高等専門学校優秀教職員表彰状を呈して深甚の謝意と敬意を表します
機械工学科	小野寺 良二	学外表彰	論文集「高専教育」第35号 高専教育論文賞	昨年度の受賞だが、通知が年度末開校に届いたため、今年度の対象者に入れる	貴殿は「離島での家電修理ボランティアを通じた実践的技術者育成と地域貢献」により高専教育論文賞を受けられ本校の発展に多大の貢献をされました ここに本校顕彰規程に基づき貴殿の卓越した功勞に対して平成24年度鶴岡工業高等専門学校優秀教職員表彰状を呈して深甚の謝意と敬意を表します
制御情報工学科	宍戸 道明	学外表彰			
電気電子工学科	内山 深	外部資金獲得	今年度1,000万円以上獲得		貴殿は教育研究・地域連携の充実強化のため外部資金の獲得に精励され本校の発展に多大の貢献をされました ここに本校顕彰規程に基づき貴殿の卓越した功勞に対して平成24年度鶴岡工業高等専門学校優秀教職員表彰状を呈して深甚の謝意と敬意を表します
物質工学科	佐藤 貴哉	外部資金獲得	今年度1,000万円以上獲得		貴殿は教育研究・地域連携の充実強化のため外部資金の獲得に精励され本校の発展に多大の貢献をされました ここに本校顕彰規程に基づき貴殿の卓越した功勞に対して平成24年度鶴岡工業高等専門学校優秀教職員表彰状を呈して深甚の謝意と敬意を表します

(出典：総務課資料)

資料3-1-④-7

教員交流，在外・内地研究員活用状況
長期研究員派遣状況

年 度	所属・職位	教員名	派遣先	派遣期間
平成20年度	総合科学科・准教授	鈴木 有祐	横浜国立大学	平成20年5月1日～ 平成21年2月28日
平成22年度	総合科学科・准教授	野々村 和晃	大阪市立大学	平成22年5月1日～ 平成23年2月28日
平成24年度	総合科学科・助教	木村 太郎	筑波大学	平成24年5月1日～ 平成25年2月28日
平成25年度	電気電子工学科・ 准教授	加藤 健太郎	群馬大学	平成25年5月1日～ 平成26年2月28日
平成18年度	物質工学科・助教	南 淳	ウィスコンシン ン大学マジソ ン校（米国）	平成18年3月20日～ 平成19年3月10日
平成20年度	物質工学科・助教	阿部 達雄	インディアナ 大学ブルーミ ントン校（米 国）	平成20年3月21日～ 平成21年3月15日

高専間交流実績表

所属	職名	氏名	期間	交流先高専名
総合科学科	准教授	加田 謙一郎	平成18年4月1日 ～ 平成19年3月31日	徳山工業高等専門学校
総合科学科	教授	大河内 邦子	平成21年4月1日 ～ 平成22年3月31日	香川高等専門学校
制御情報工学科	准教授	三村 泰成	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	一関工業高等専門学校

(出典：総務課資料)

各種教員研究集会への参加一覧

研修名称	主催者	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)	国立高等専門学校機構	2	2	2	2	2
カルト問題に関する研修会	国立大学法人山形大学	2				
高等専門学校新任教員研修会	国立高等専門学校機構	5	1		4	3
教育方法改善共同プロジェクト教員研究集会	国立高等専門学校機構	1				
全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	国立高等専門学校機構	1	1	1	1	1
障害学生学支援助教職員研修会	日本学生支援機構			1		
新任校長研修会	国立高等専門学校機構				1	
高等専門学校教員研修(管理職研修)	国立高等専門学校機構				1	1
全国学生指導担当教職員研修会	日本学生支援機構				1	
平成24年度教員のための原子炉実験・研修会「原子炉を用いたエネルギー・放射線体験講習」	近畿大学					1
平成24年度障害学生支援研修会[理解・実践プログラム]	日本学生支援機構					1
平成24年度国立高等専門学校機構産学連携に関する実践セミナー	国立高等専門学校機構					1
全国高専女子フォーラム	国立高等専門学校機構				2	2
高専・長岡技科大(機械系)教員交流研究集会	長岡技術科学大学	1	1	2	1	1
高専・長岡技科大(電気系)教員交流研究集会	長岡技術科学大学				2	
高専・長岡技科大(経営情報系)教員交流研究集会	長岡技術科学大学		1		1	
高専・長岡技科大(環境・建設系)教員交流研究集会	長岡技術科学大学	1	1			
高専・技科大連携教員研究集会	豊橋技術科学大学		2	2	2	2
全国高専教育フォーラム	国立高等専門学校機構		1	5	4	6
国立高専機構主催高等専門学校教員研究集会	国立高等専門学校機構	3				
国立高専機構主催高等専門学校教員研究集会(プロジェクト研究集会)	国立高等専門学校機構	1	1			
留学生・国際交流担当教員研究集会	国立高等専門学校機構		1			
東北地区高等専門学校教員研究集会		※	2	3	3	3

※平成20年度の東北地区高専教員研究集会…主管校のため、発表者は2名、聴講者は多数。

(出典：総務課資料)

鶴岡工業高等専門学校研究奨励教員に関する申し合わせ

制 定 平成24年1月5日

(目的)

第1条 この申し合わせは、鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）における研究活動の活性化を目的として、教員の研究遂行に必要な知識及び能力の向上を図る活動を奨励するため必要な事項を申し合わせる。

(資格)

第2条 研究奨励教員となることができる者は、本校の准教授、講師、助教の職にある者とする。

(期間)

第3条 研究奨励教員の期間は、原則として1年とする。

2 前項の期間は、校長が認める場合は、最大で2年まで延長することができる。

(校務の免除等)

第4条 校長は、研究奨励教員の次の校務を免除又は軽減することができる。

- (1) 担任
- (2) 部活動顧問
- (3) 各種委員会等の管理運営関係業務

(出典：規程集)

資料3-1-④-10

研究奨励教員一覧

学科	職位	氏名	期間	テーマ
総合科学科	講師	上條利夫	平成24年4月1日～ 平成26年3月31日	能動制御が可能な 超潤滑表面の創製
機械工学科	准教授	増山知也	”	浸炭歯車の損傷評価と 予寿命予測
制御情報 工学科	准教授	三村泰成	”	災害対応型組立構造物の 設計・供給システムの開発

(出典：総務課資料)

資料3-1-④-11

校長面談案内

題名 校長面談の実施について
差出人 菅井 久美子

教職員各位

いつもお世話になっております。総務の菅井です。
今年度も、下記のとおり校長面談を実施することとなりました。

つきましては、対象者は、別添ファイルにご記入のうえ、5月
7日(月)までに総務係まで提出願います。

(提出はメールでもかまいませんが、プリントの上、封筒に入
れて提出いただければ、そのまま校長にお渡しします。)

なお、その際に併せて面談の希望日時をお知らせください。
おって、調整の上、面談の日時をお知らせします。

■対象者

- ・新しく着任した教員
- ・配置換えのあった教員
- ・新しく着任した職員(非常勤含む)
- ・希望者

■面談時間

1人30分程度

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教員採用に当たっては、年齢構成、男女比率、教育経歴、実務経験も配慮してきた。教員組織の構成は、バランスが取れたものとなっている。教員の多くが多様な経験をしており、さらに、研究奨励教員、校長との面談などを行い、教員組織の活性化を図っており、適切な措置が講じられている。

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

学校による定期的評価として、「国立高等専門学校機構教員顕彰に係る教員の自己評価及び相互評価の実施」に基づき、教員の点検・評価を毎年行っている(資料3-2-①-1, 2)。

また、教員教育評価票は、年度当初に計画した教育活動内容について教員が自己評価した後、FD委員会が点検・評価を行い、教員及び評価・改善委員会に報告・提言し、改善を図っている(資料3-2-①-3)。

上記の定期的評価に基づき、教員組織の見直しが図られている。平成24年度から平成25年度にかけては、専門学科の教育活動強化、専攻科課程充実のため、一般科目担当教員3名を専門学科へ異動させる組織変更を行った(資料3-2-①-4)。

また、平成23年度までに教職員で構成される会議・委員会組織が53組織存在していたが、平成25年度は、31組織までスリム化し、教員教育活動をし易いように見直されている(資料3-2-①-5)。

学生による授業評価については、FD委員会が中心になって、学年末に非常勤講師を含む全教員に対する「学生による授業改善アンケート調査」を実施し、その結果を個々の教員自身が把握して授業の改善に役立てている(資料3-2-①-6~8)。

教員自己評価の通知

題名 平成24年度国立高等専門学校教員顕彰に係る教員の自己評価及び相互評価の実施について(通知)
差出人 滝島 はるか

平成24年10月10日

教員各位

校長

平成24年度国立高等専門学校教員顕彰に係る
教員の自己評価及び相互評価の実施について(通知)

国立高等専門学校機構による教員顕彰が、別添の「平成24年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づき実施されることになりました。

については、*_各教員は、別添の「参考資料01：教員の教育業績等評価」を参照の上、「評価集計表」に必要事項を全て記入(黒ペン使用)し、第1部(教員による自己評価)と第2部(教員による相互評価)を切り離しそれぞれ封書に入れ、10月17日(水)までに総務課人事係長へ提出してください。*_ただし、記名があっても差し支えない場合は切り離さずに提出いただいで構いません。提出者を把握する必要がありますので、学内便等ではなく直接持参願います。

なお、第2部(教員による相互評価)については、教務主事及び人事係長立ち会いのもとで開封・集計を行います。

また、教員の自己評価、相互評価に加え、学生(第3学年～第5学年)による教員の評価も実施します。別途クラス担任の先生方へ依頼しますので、併せて御協力方お願いします。

本件については、顕彰の趣旨を踏まえ、全教員からの提出を強く要請します。提出期限厳守の上、提出方お願いします。

(出典：総務課資料)

自己評価書

評 価 集 計 表

学校名：鶴岡高専 _____ 学科： _____ 科

氏名： _____

第1部

(注) 各項目内の小数字は満点を示す。A. 5～6を除く場合は合計153点。

A. 授業等の担当

1. 授業について

(1)	3	(2)	3	計	6
-----	---	-----	---	---	---

2. 授業内容・方法

(1)	3	(2)	3	(3)	3	(4)	2	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

3. 成績評価

(1)	3	(2)	3	(3)	3	計	9
-----	---	-----	---	-----	---	---	---

4. 授業に関連する指導

(1)	3	(2)	3	計	6
-----	---	-----	---	---	---

5. 卒業論文指導の状況等

(1)	2	(2)	3	(3)	3	(4)	3	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

6. 留学生の指導等

(1)	2	(2)	2	(3)	2	計	6
-----	---	-----	---	-----	---	---	---

Aの合計 49

B. FD活動, 地域貢献

1	10	2	10	3	12	4	8	Bの合計	40
---	----	---	----	---	----	---	---	------	----

C. 学生生活指導

1. 課外活動

(1)	2	(2)	8	(3)	2	(4)	2	計	14
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

2. 厚生補導

(1)	2	(2)	2	(3)	3	(4)	6	計	19
		(5)	2	(6)	4				

3. 進路指導及び学外活動

(1)	2	(2)	2	(3)	2	(4)	2	計	8
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	---

Cの合計 41

D. 経歴関係

1	5	2	5	3	20	4	10	Dの合計	40
---	---	---	---	---	----	---	----	------	----

集 計 表

A	49	B	40	C	41	D	40	合 計	170
---	----	---	----	---	----	---	----	-----	-----

(出典：総務課資料)

平成24年度教員教育評価票

学科名: _____ 教員名: _____

自己評価年月日: 平成 25年 月 日

評価項目と採点基準(下記基準を目安に10点満点で自己評価欄に記入)	自己評価	要改善
1. 全体的にシラバス通りの内容で授業を実施したか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点		
2. 自学自習の指導を行ったか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点		
3. 授業の教材, 準備, 進め方等について反省点があるか。 かなりある=0点 若干ある=5点 ほとんどない=10点		
4. オフィスアワーやその他の時間に学生の来室があったか。 全く来室がない=0点 毎月来室があった=5点 毎週来室があった=10点		
5. 試験やレポート等の内容のレベルは妥当だったか。 出題範囲・内容・レベルに問題がある=0点 シラバスに即しておりほぼ妥当=5点 シラバスに即しており十分妥当=10点		
6. 学習・教育目標を十分達成したか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点		
7. 学生自身に達成度を評価させるための方策をとったか。(試験・レポート) 答案等返却なしの成績表示のみ=0点 答案等返却なしの正解揭示=4点 答案等の返却のみ=6点 答案等の添削返却=8点 答案等の添削返却に加えて解説や個別指導も行った=10点		
8. 目標未達成の学生に対して何らかの指導を行ったか。 指導しなかった=0点 少し指導を行った=5点 指導を十分行った=10点		
合計点(目標 48点以上/80点満点)	0	

* 自己評価欄には、0～10点までの任意の点数を記載すること。

* 要改善の欄には、次の通り記載のこと。

改善が必要な場合:「レ」を記載 改善が不要な場合:記載なし

改善計画(要改善の項目について記載)

(出典:FD委員会資料)

資料3-2-①-4

専門学科への教員配置状況

平成23年5月1日現在

区 分		教 授	特任教授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
専 門 科 目	機 械 工 学 科	2	1	6		1		10
	電 気 電 子 工 学 科	5		4		1		10
	制 御 情 報 工 学 科	4		4		2		10
	物 質 工 学 科	5	1	3		3		12
合 計		16	2	17		7		42

平成24年5月1日現在

区 分		教 授	特任教授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
専 門 科 目	機 械 工 学 科	2		6		1		9
	電 気 電 子 工 学 科	6		4		1		11
	制 御 情 報 工 学 科	4	1	4		1		10
	物 質 工 学 科	4	1	4		3		12
合 計		16	2	18		5		42

平成25年5月1日現在

区 分		教 授	特任教授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
専 門 科 目	機 械 工 学 科	4		6		1		11
	電 気 電 子 工 学 科	6		4		1		11
	制 御 情 報 工 学 科	3	1	6		1		11
	物 質 工 学 科	4	1	3		3		11
合 計		17	2	19		6		44

(出典：総務課資料)

資料3-2-①-5

平成23年度校務分掌（抜粋）

運営会議	議 校長、柳本、江口、佐藤浩、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、宮崎、大河内、佐藤貴、吉住、白野、内山、事務部長、総務課長、学生課長 18名
校長室会議	議 校長、柳本、江口、佐藤浩、宮崎、佐藤貴、事務部長、総務課長、学生課長 9名
点検評価等実施委員会	委 校長、柳本、江口、佐藤浩、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、宮崎、大河内、佐藤貴、吉住、白野、内山、事務部長、総務課長、学生課長 18名
中期計画統括委員会	委 校長、(副)柳本、(副)事務部長、江口、佐藤浩、宮崎、佐藤貴、総務課長、学生課長 9名
将来計画委員会	委 校長、柳本、江口、佐藤浩、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、宮崎、佐藤貴、事務部長、総務課長、学生課長 14名
教務委員会	委 柳本、上松、神田、増山、南、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、宮崎、学生課長 12名
学生委員会	委 江口、佐藤浩、山田、五十嵐、渡部、佐藤司、阿部秀、加田、木村、主濱、矢吹、田中、佐藤淳、森谷、宍戸、阿部達、加藤(健)、学生課長 18名
寮務委員会	委 佐藤浩、江口、田邊、佐々木、宝賀、三村、比留間、田阪、本間、上條、吉木、伊藤堅、安齋、西山、瀬川、森永、事務部長、学生課長 18名
専攻科会議	議 宮崎、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、佐藤貴、学生課長 8名
同列等検討WG	主 宮崎、飯島、増山(教務主事補)、保科、教務係長 5名
国際交流支援室	長 内山、(副)学生課長補佐、畑江、主濱、加藤(康)、武市、西山、三上、事務2 10名
教育点検評価委員会	委 竹村、本間、武市、三村、佐藤司 5名
教育改善委員会	委 飯島、畑江、矢吹、保科、宍戸 5名
国際交流委員会	委 校長、柳本、江口、佐藤浩、澤、本橋、佐藤秀、佐藤義、栗野、宮崎、事務部長 11名

平成25年度校務分掌（抜粋）

運営会議	議 校長、柳本、佐藤(浩)、本間(浩)、飯島、佐藤(貴)、窪田、本橋、佐藤(秀)、吉住、瀬川、大河内、佐藤(淳)、江口、内山、渡部、事務部長、総務課長、学生課長 19名
将来構想・戦略会議	議 校長、柳本、佐藤(浩)、本間(浩)、飯島、佐藤(貴)、事務部長、総務課長、学生課長 9名
評価・改善委員会	委 佐藤(浩)、飯島、佐藤(貴)、大河内、佐藤(淳)、江口、内山、事務部長 8名
認証評価対応委員会	委 吉住、(副)江口、本間(浩)、田中、佐藤(司) 5名
教員業績評価委員会	委 校長、柳本、佐藤(浩)、本間(浩)、飯島、佐藤(貴)、事務部長、総務課長、人事係長 9名
教務委員会	委 柳本、窪田、本橋、佐藤(秀)、吉住、瀬川、田中、神田、宍戸、南、学生課長 11名
学生委員会	委 佐藤(浩)、本間(浩)、野々村、小野寺、保科、渡部、上松、田邊、阿部(秀)、徳永、五十嵐、森谷、安齋、佐藤(司)、学生課長 15名
寮務委員会	委 本間(浩)、佐藤(浩)、茨木、矢吹、宝賀、西山、加田、比留間、主濱、田阪、佐々木、佐藤(淳)、内海、戸嶋、寮監、事務部長、学生課長 17名
専攻科委員会	議 飯島、佐藤(淳)、宍戸、矢吹、保科、戸嶋、主濱、学生課長 8名
F D 委員会	委 渡部、木村、竹村、武市、清野 5名

(出典：総務課資料)

平成24年度 後期授業アンケート実施要項

【目的】

授業アンケートを行うことによって学生の学習状況やシラバスの活用状況、および授業の理解度等を把握し、その結果を授業改善に活かすことを目的としています。

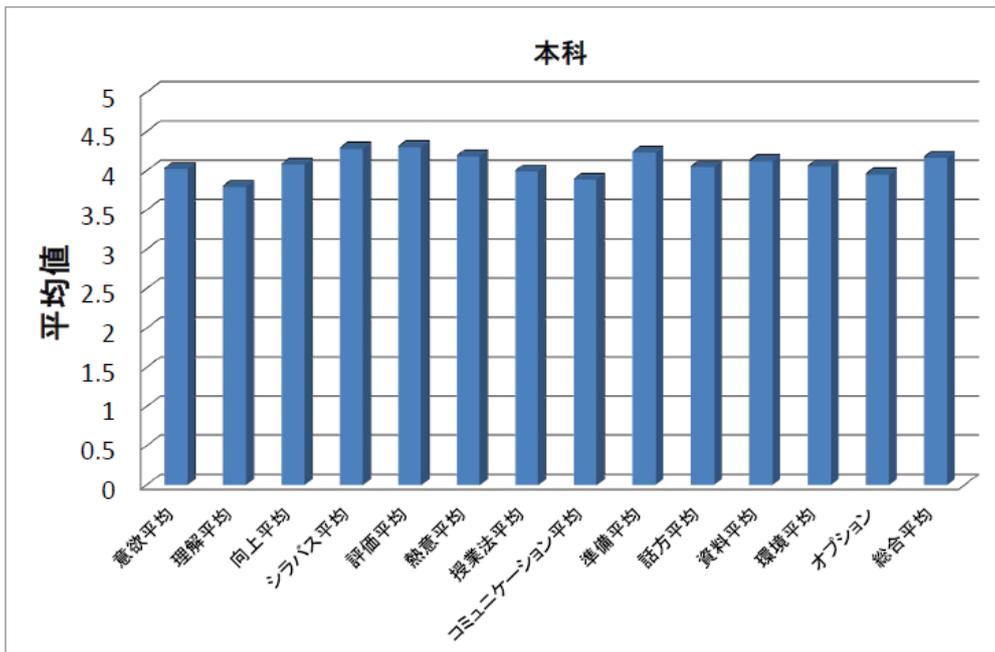
【内容】

- (1) 対象科目：後期で終了する委員会より指定した開講科目。
- (2) 実施日時：1月中旬から2月上旬までを目安にしてください。（授業時間の最後10分～15分程度を利用して下さい。）
- (3) 実施担当：当該授業の担当教員(授業クラスの単位で各教員が行います)
- (4) 用紙配布：各学科のFD委員が実施担当者に配布
G：岡崎，M：矢吹，E：加藤，I：西山，B：飯島
- (5) 実施要領：用紙を配布し、アンケート用紙に記載されている記入上の注意を説明してください。
マークシート形式と自由記述形式の2つに記入させてください。
【所属分類】では
分類A：学校コード023と記入してください。
分類B：学科コード 機械工学科20，電気電子工学科30，制御情報工学科40，
物質工学科50，機械電気システム工学専攻60，物質工学専攻70と記入してください。
分類C：不要です
【時間割コード】は、送付した封筒のラベルに記載されております。
【設問14】座学以外で授業内容にそぐわない設問については、「教室」→「教室など」と読みかえてください。
【設問15】と【設問19】については、それぞれ必要に応じてご活用ください。その際、学生に提示した設問を教員コメント用紙に記してください。
- (6) 用紙返却：アンケート実施担当者が教務係鈴木課長補佐に返却してください。なお、アンケート記入結果をご覧になったの教員コメントも併せて同封してください。

(出典：FD委員会資料)

資料3-2-①-7

授業改善アンケート結果



(出典：FD委員会資料)

資料3-2-①-8

教員コメント事例

学科・学年 (○で囲んで下さい)	(M) E I B 学科 1年・2年・3年・4年・5年
科目名	精密加工学
教員名	田中 浩
授業アンケート結果に対する教員コメント(自己評価・必要と思われる改善点等)を記入願います。	
プロジェクタや小道具を早く説明するの 良いが、一方的な授業にたがった。 今年は、備前、出陣カードを毎回ついで 出してさうした。 次年度は、演習を3-4と、より多く 学生参加型にした。	
今回の授業アンケート実施方法に対する意見・要望等ありましたら記入願います。	
男・女の性的な入ったところがあるが、 からの場合、女子一人の取がた。 → 性別は入れる方がいいのではあるか?	

(出典：FD委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校による定期的評価として、国立高等専門学校機構教員顕彰に係る教員の自己評価及び相互評価、及び教員教育評価票による教育活動評価が行われており、FD委員会が点検・評価し、教員及び評価・改善委員会に報告・提言し、改善を図っている。また、学生による授業評価については、授業改善アンケート調査を実施し、その結果を個々の教員自身が把握して授業の改善に役立てており、学校による定期的な評価が行われ、教員組織の見直し等、適切な取組がなされている。

観点3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の教員の採用については、「鶴岡工業高等専門学校教員選考規程」(以下「教員選考規程」という。)に基づき、原則として、公募により選考している(資料3-2-②-1~2, 資料3-1-④-1参照)。

教員の採用に際しては、校長、教務主事、当該学科長等を構成員とする教員選考委員会を設置の上、「鶴岡工業高等専門学校教員選考基準」(以下「教員選考基準」という。)に基づき、書類審査を行い、その報告を受け、面接を実施した上で最終候補者を決定している(資料3-2-②-3)。

教員の昇任については、教員選考基準に基づき選考している。

非常勤講師の採用については、「鶴岡工業高等専門学校非常勤講師採用に関する申し合わせ」(以下「非常勤講師採用に関する申し合わせ」という。)に基づいて、各学科長からの非常勤講師採用計画とともに非常勤講師選考調書を学生課に提出し、その選考調書を基に、校長及び教務主事で採用計画を策定し、教務委員会で資格審査を行った上で採用候補者を決定している。非常勤講師の退職に関しては、原則として、非常勤講師採用に関する申し合わせに基づき、満67才に達した者は、その達した日の属する年度の末日までとしている。(資料3-2-②-4~5)。

資料3-2-②-1

鶴岡工業高等専門学校教員選考規程(抜粋)

(総則)

第1条 鶴岡工業高等専門学校の教員人事については、法令その他別段の定めがあるもののほかこの規程の定めるところによる。

(出典：総務課資料)

資料3-2-②-2

鶴岡工業高等専門学校教員選考基準（抜粋）

（目的及び総記）

第1条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員人事（採用および昇任）を適正に行い、本校の充実発展に資するために、鶴岡工業高等専門学校教員選考基準（以下「基準」という。）を定める。

（出典：総務課資料）

資料3-2-②-3

教員選考委員会設置通知（抜粋）

題名 教員選考委員会設置のお知らせ
差出人 加藤靖

平成24年7月30日

教職員各位

校長 加藤 靖

教員選考委員会の設置について

下記の構成員による制御情報工学科教員（助教）の選考委員会を設置しましたのでお知らせします。

記

制御情報工学科教員（助教）選考委員会構成員

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 制御情報工学科長
- (4) 事務部長

（出典：総務課資料）

非常勤講師申し合わせ事項

鶴岡工業高等専門学校非常勤講師採用に関する申し合わせ

制 定 平成19年4月11日

本校非常勤講師の新規採用・継続採用（以下「採用」という。）については、この申し合わせによるものとする。

1. 候補者、担当科目及び担当時間等は、教務委員会において審議し、決定する。
2. 採用する人数及び担当する時間数は、必要最小限の人数、時間数とする。
3. 候補者の選考にあたっては、経歴、教育歴、研究歴等を勘案し、総合的に評価する。
なお、新たに採用する場合は、別紙「非常勤講師選考調書」に基づき、選考する。
4. 採用は、66歳以下の者とし、採用後、満67歳に達する者は、その達する日の属する年度の末日までとする。
5. 採用に係る手続きは、別紙「非常勤講師採用に係るフロー」により行う。
6. この申し合わせにより難い特別の事情が生じた場合は、その都度、校長が別段の取扱いをすることができる。

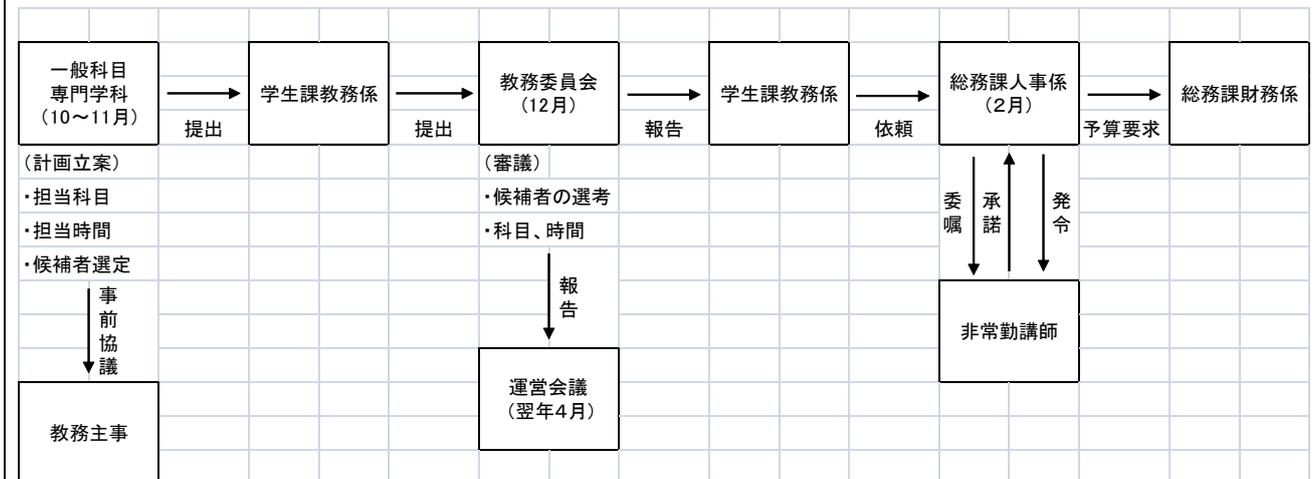
備考

1. この申し合わせは、平成20年4月1日以降に採用する非常勤講師から適用する。
2. 非常勤講師の取り扱いについて申し合わせ（平成14年10月11日運営委員会了承）は廃止する。

(出典：総務課資料)

資料 3-2-②-5

非常勤講師採用に係わるフロー



(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の採用については、教員選考規程に基づき採用候補者の公募を行った上で、面接を実施し、最終候補者を決定している。また、昇任についても教育研究業績等を勘考して、教員選考基準に基づいた昇任が実施されている。また、非常勤講師の採用については、非常勤講師採用に関する申し合わせに基づき決定しており、教員の採用や昇格等に関する基準や規程が明確に定められ、適切に運用がなされている。

観点 3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の事務職員、技術職員等は、事務職員配置状況の通り配置されている(資料 3-3-①-1~2)。

教育支援は、主として総務課(図書情報係)と学生課(教務係、学生係、寮務係)と教育研究技術支援センター(第1班~3班)で行っている。教務係は、授業時間割の編成、授業及び試験に関すること、学生の校外実習等に関すること、学生係は、学生の課外活動、学生の育英奨学、学生の就職指導や福利厚生に関すること、寮務係は、学生寮の管理運営、寮生の福利厚生等の支援業務を行っている。また、技術職員は、教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること、学生の実験及び実習の技術指導に関すること、実験・実習施設における機械器具等の保全管理等の教育支援を行っており、必要な人材と人員が配置されている(資料 3-3-①-3, 資料 2-1-③-16~18参照)。

図書情報係には、司書の資格を有した職員を配置し、教育及び研究活動に必要な図書等の収集、管理及び運用を行って支援している。

鶴岡工業高等専門学校事務組織等規程（抜粋）

制 定 昭和41年 4月 1日
最終改正 平成24年 2月 29日

第1章 総 則

（目的）

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条の2、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第10条、第12条及び鶴岡工業高等専門学校学則第10条、第11条の規定に基づき、鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌並びに技術職員の職制について必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

（事務部）

第2条 本校に、本校の管理その他の事務を行わせるため、事務部を置く。
2 事務部にその所掌事務を分掌させるため、総務課、学生課及び企画室を置く。
3 課及び室に係を置く。

（総務課）

第10条 総務課に、総務係、人事係、図書情報係、財務係、用度係及び施設係を置く。
4 図書情報係においては、次の事務をつかさどる。

（図書メディアセンター関係）

- 一 図書メディアセンターの管理運営に関すること。
- 二 図書メディアセンター資料の受入並びに整備及び保存等に関すること。
- 三 図書メディアセンター資料の閲覧、帯出等利用に関すること。
- 四 図書メディアセンターにおけるレファレンスサービス（検索指導、読書相談等）に関すること。

(学生課)

- 第11条 学生課に、教務係、学生係及び寮務係を置く。
- 2 学生課に、学生課の所掌する事務を係の分掌を超えて共同で処理するため、係員で組織する学生課グループを置くことができる。
 - 3 学生課グループは、上司の命を受け、共同で処理することが適当とする分野の事務を処理する。
 - 4 学生課グループの構成及び事務の内容は別に定める。
 - 5 教務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生課の事務に関し、総括し、連絡調整すること。
 - 二 学生厚生補導関係経費等の予算要求に関すること。
 - 三 入学者の選抜に関すること。
 - 四 入試システムの利用に関すること。
 - 五 教育課程の編成に関すること。
 - 六 教育方法に関すること。
 - 七 授業及び試験に関すること。
 - 八 学生の成績及び出欠席に関すること。
 - 九 学生指導要録その他学生の諸記録の整理保管に関すること。
 - 十 入学、退学、休学、復学、除籍及び卒業（修了）に関すること。
 - 十一 進級及び卒業（修了）の認定に関すること。
 - 十二 学生の身分、成績及び卒業（修了）等の証明に関すること。
 - 十三 指導要録に記録を要する諸届に関すること。
 - 十四 教科書及び教材に関すること。
 - 十五 学生の校外実習及び見学等に関すること。
 - 十六 J A B E Eに関すること。
 - 十七 外国人留学生に関すること。
 - 十八 所掌事務に関する調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十九 その他教務に関すること。
 - 6 学生係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の課外教育に関すること。
 - 二 学生会その他学生団体に関すること。
 - 三 奨学金及び入学料・授業料の減免、徴収猶予に関すること。
 - 四 学生の厚生施設及び厚生事業に関すること。
 - 五 学生の健康管理及び安全保持に関すること。
 - 六 学生の相談に関すること。
 - 七 学生の就職指導及び斡旋に関すること。
 - 八 学生旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関すること。
 - 九 学生のアルバイトに関すること。
 - 十 独立行政法人日本スポーツ振興センターに係る共済給付契約及び給付金の支払請求に関すること。
 - 十一 学生の表彰及び懲戒に関すること。
 - 十二 所掌事務に関する調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十三 その他学生の厚生補導に関すること。
 - 7 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生寮の管理運営に関すること。
 - 二 入寮及び退寮に関すること。
 - 三 寮生の保健衛生及び栄養管理に関すること。
 - 四 寮生の給食等に関すること。
 - 五 所掌事務に関する調査統計その他諸報告に関すること。
 - 六 その他寮生の厚生補導に関すること。

第4章 技術職員

(技術長)

第13条 技術長は、技術専門員、技術班長、技術専門職員及び技術職員の業務を統括するとともに、各班の連絡調整及びセンター職員の研修に関する業務を行う。

(技術専門員)

第14条 技術専門員は、極めて高度の専門的な知識、技術を必要とする業務を処理する。

(技術専門職員)

第15条 技術専門職員は、高度の専門的な知識、技術等を必要とする業務を処理する。

(技術職員)

第16条 技術職員は、専門的な知識、技術等を必要とする業務を処理する。

(出典：規程集)

事務職員，技術職員配置状況

学校運営組織図 Organization Chart



(出典：平成25年学校総覧，p. 6)

鶴岡工業高等専門学校教育研究技術支援センター規程（抜粋）

制 定 平成20年11月12日
最終改正 平成24年 2月29日

（趣旨）

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第12条及び鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第7条第2項及び第8条第4項の規定に基づき、鶴岡工業高等専門学校教育研究技術支援センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 この規程は、技術職員が連携し教育研究業務の計画的な技術的支援を行い、鶴岡工業高等専門学校の教育研究の充実及び機能的かつ円滑な推進を図ることを目的とする。

（センターの業務）

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
- 二 学生の実験及び実習の技術指導に関すること。
- 三 技術の継承及び保存に関すること。
- 四 技術研修等の企画及び連絡調整に関すること。
- 五 実験・実習施設における機械器具等の保安全管理に関すること。
- 六 実習工場における危害防止に関すること。
- 七 実験研究等の装置を製作すること。
- 八 その他教育研究支援についての必要な業務

（出典：規程集）

（分析結果とその根拠理由）

事務職員の教育支援については、主として総務課・学生課で行っている。また、技術職員は教育研究技術支援センターとして組織化されており、専門分野の異なる各学科において十分な教育支援ができるよう、必要な人材と人員が配置されている。

以上により、学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員構成は、年齢構成、教育経歴、実務経験が配慮され、バランスが取れている。また、技術職員は、教育研究技術支援センターとして組織化され、全学科への教育支援ができる体制がとられている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準3の自己評価の概要

本校は、1学年4学級（1学科1学級）の入学定員が160人で、一般科目担当教員として、専任19人、非常勤講師18人を配置し、高等専門学校設置基準を満たしている。専任教員及び非常勤講師は、専門分野に応じた科目を担当しており、豊かな人間性を持った創造力に富んだ実践的技術者を養成している。教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員を適切に配置している。

本校は、1学年4学級（1学科1学級）で構成され、専門科目担当教員として、専任44人、非常勤講師28人を配置し、高等専門学校設置基準を満たしており、4つの専門学科に適切に配置している。高い専門性を有した専任教員及び非常勤講師は、専門分野に応じた科目を担当しており、工業界の様々な分野で活躍できる教養豊かな実践的技術者を養成している。

以上により、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

専攻科課程は、機械電気システム工学専攻及び物質工学専攻の2専攻で構成されており、専攻科課程の学習・教育目標と具体的な到達目標を達成するために、両専攻に共通な一般科目・共通専門科目と専門科目の区分ごとに必要な高度の専門性を有する授業科目担当教員を適切に配置している。

本校の教員採用に当たっては、年齢構成、男女比率、教育経歴、実務経験も配慮してきた。教員組織の構成は、バランスが取れたものとなっている。教員の多くが多様な経験をしており、さらに、研究奨励教員、校長との面談などを行い、教員組織の活性化を図っており、適切な措置が講じられている。

学校による定期的評価として、国立高等専門学校機構教員顕彰に係る教員の自己評価及び相互評価、及び教員教育評価票による教育活動評価が行われており、FD委員会が点検・評価し、教員及び評価・改善委員会に報告・提言し、改善を図っている。また、学生による授業評価については、授業改善アンケート調査を実施し、その結果を個々の教員自身が把握して授業の改善に役立てており、学校による定期的な評価が行われ、教員組織の見直し等、適切な取組がなされている。

教員の採用については、教員選考規程に基づき採用候補者の公募を行った上で、面接を実施し、最終候補者を決定している。また、昇任についても教育研究業績等を勘考して、教員選考基準に基づいた昇任が実施されている。また、非常勤講師の採用については、非常勤講師採用に関する申し合わせに基づき決定しており、教員の採用や昇格等に関する基準や規程が明確に定められ、適切に運用がなされている。

事務職員の教育支援については、主として総務課・学生課で行っている。また、技術職員は教育研究技術支援センターとして組織化されており、専門分野の異なる各学科において十分な教育支援ができるよう、必要な人材と人員が配置されている。学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。